

平成13年度 陵墓関係調査報告

陵墓調査室

調査の概要

陵墓調査室では、古代高塚式陵墓及び埋蔵文化財包蔵地における陵墓の保全・整備のため緊要な土木工事等を実施するに当たって、施工区域・箇所・遺構・遺物の有無を確認し、工法決定に資するために事前調査・立会調査を行っている。平成13年度も各陵墓監区事務所と協力して次の区域・箇所において調査を行った。

〔事前調査〕

- 1 白鳥陵(大阪府羽曳野市軽里3丁目)墳塋裾護岸その他整備工事区域の調査

古市監区、10～12月実施、担当 徳田誠志・清喜裕二・井上 武・松尾 浩・熊谷友宏・小谷 武史

- 2 聖徳太子磯長墓(大阪府南河内郡太子町大字太子 叡福寺内)内「結界石」緊急保存処理事業箇所の調査

古市監区、11月実施、担当 福尾正彦・北條朝彦・井上 武・寺本公通・大平 齊

〔立会調査〕

- 3 香淳皇后武蔵野東陵(東京都八王子市長房町)営建関連工事箇所の調査

多摩監区、4～7月、担当 佐藤利秀

- (1) 昭和天皇武蔵野陵見張所新築工事箇所の調査
- (2) 香淳皇后武蔵野東陵裏斜面土留擁壁工事箇所の調査
- (3) 武蔵陵墓地裏参道電気線・表参道給水管埋設工事箇所の調査
- (4) 武蔵陵墓地表参道手水鉢設置・給水管埋設工事箇所の調査
- (5) 昭和天皇武蔵野陵見張所浄化槽設置工事箇所の調査
- (6) 武蔵陵墓地通用門付近ほか電気線・水道管埋設工事箇所の調査
- (7) 大正天皇多摩陵見張所電気線埋設工事箇所の調査
- (8) 武蔵陵墓地雨水排水用開渠改修工事箇所の調査
- (9) 武蔵陵墓地駐車場舗装・雨水排水管埋設工事箇所の調査

- 4 清寧天皇河内坂門原陵(大阪府羽曳野市西浦6丁目)外堤入水管埋設工事箇所の調査

古市監区、5・6月実施、担当 清喜裕二・熊谷友宏・仲田裕行

- 5 仲哀天皇恵我長野西陵(大阪府藤井寺市藤井寺4丁目)藤井寺部事務所下水道管埋設その他工事箇所の調査

古市監区、7・8月実施、担当 川添 悟・小谷武史

- 6 贈皇太后朝子般舟院陵(京都市上京区般舟院前町)駒寄鉄扉設置工事箇所の調査

- 月輪監区、8月実施、担当 岡田日出男・宮田幸一
- 7 雄略天皇丹比高鷲原陵（大阪府羽曳野市島泉8丁目）余水吐転落防止柵取設その他工事箇所の調査
古市監区、9月実施、担当 川添 悟・小谷武史
- 8 白鳥陵（大阪府羽曳野市軽里3丁目）樋管改修工事箇所の調査
古市監区、9・10月実施、担当 徳田誠志・熊谷友宏・仲田裕行
- 9 久邇宮墓地賀彦王墓以下3墓（京都市東山区今熊野悲田院山町）鳥居改築工事箇所の調査
月輪監区、9・10月実施、担当 奥野 肇・藤井 勲
- 10 仲恭天皇九條陵（京都市伏見区深草本寺山町）鳥居改築工事箇所の調査
月輪監区、10月実施、担当 今出伸一・山本在大
- 11 舒明天皇押坂内陵（奈良県桜井市大字忍阪）鳥居改築工事箇所の調査
畝傍監区、11月実施、担当 芳村弘士・濱本厚志
- 12 四條天皇月輪陵以下（京都市東山区今熊野泉山町 泉涌寺内）築地堀改築その他工事箇所の調査
月輪監区、11・12月実施、担当 奥野 肇・藤井 勲・今出伸一・山本在大
- 13 聖徳太子磯長墓（大阪府南河内郡太子町大字太子 叡福寺内）内「結界石」緊急保存処理事業箇所の調査
古市監区、12月実施、担当 井上 武・寺本公通、大平 齊
- 14 後白河天皇法住寺陵（京都市東山区三十三間堂廻り町）見張所改築工事箇所の調査
月輪監区、12・1月実施、担当 福尾正彦・今出伸一・藤井 勲、奥野 肇・山本在大
- 15 称徳天皇高野陵（奈良県奈良市山陵町）見張所改築工事箇所の調査
畝傍監区、12・2月実施、担当 清喜裕二・今井隆太郎・長濱匡洋
- 16 日葉酢媛命狭木之寺間陵（奈良県奈良市山陵町）樋門改修工事箇所の調査
畝傍監区、1月実施、担当 福尾正彦・本多 均・南 義孝、今井隆太郎・長濱匡洋
- 17 桃山陵墓地（京都市伏見区桃山町古城山ほか）外構柵整備工事箇所の調査
桃山監区、1・2月実施、担当 曾田誠二・舂吉悠也・高濱繁伸・妹尾吉紹・玉石直裕・石塚俊光
- 18 日本武尊能褒野墓（三重県亀山市田村町）鳥居改築工事箇所の調査
畝傍監区、1・2月実施、担当 清喜裕二・小走泰弘・三井朋宏
- 19 玉津陵墓参考地（神戸市西区王塚台3丁目）墳塋裾等護岸その他整備工事区域（中、正面鉄扉設置箇所）の調査
桃山監区、2月実施、担当 徳田誠志
- 20 履中天皇百舌鳥耳原南陵（堺市石津ヶ丘）余水吐上架橋拡幅工事箇所の調査
古市監区、3月実施、担当 松尾 浩・小走直敬
- 21 仁徳天皇百舌鳥耳原中陵（堺市大仙町）第2堤土留柵取設工事箇所の調査
古市監区、3月実施、担当 松尾 浩・小走直敬

22 応神天皇陵飛地へ号(大阪府藤井寺市藤ヶ丘1丁目)土留柵取設工事箇所の調査

事前調査のうち、1は報文を後掲する。

立会調査のうち、香淳皇后陵営建関連工事に伴う3、見張所改築工事に伴う14・15、監区職員だけでは調査が困難な4・8・16・18・19は当調査室員も参加したもので、8を除き、報文を後掲する。

その他の調査結果は、以下のとおりである。但し2と13は、継続事業であるので、事業終了後に詳細を報告する予定である。

- 2 当年度の保存処理区域(墳丘中段境界石第177～307号の130基)は墳丘北側の背面にあって、墳丘斜面がなだらかな面に移行した末端付近に小土堤状の地膨れがあり、その外側(墳丘裾側)に中段境界石が立列べられている。同所に長さ2.5～7m×幅1～2mのトレンチ3本を設けて調査した。この境界石の据え方は、先ず墳丘裾斜面と端部を大きく削り取り、端部に下段境界石を据えて裏に礫石を詰め、次にその内側(墳丘側)斜面に墳丘等高線に沿って浅い溝を掘り、床に扁平な石を敷き、その上に中段境界石を据え、下段境界石と併せて掘方内を粘質土で被覆し、更に中段境界石の内側(墳丘側)に盛土をしたものである。中段境界石の掘方内からは「寛永通宝」や土師器が出土した。

上述のなだらかな斜面には、不整形プランの浅い掘り込みが多数認められ、その中には炭化物・小骨片が散布し、「寛永通宝」・土師器等が伴出するものもあって火葬墓と推測された。また付近から一石五輪塔が多く出土し、「永享九年」銘のものもある。

- 5 黄褐色又は灰褐色の粘質土からなる3層が認められ、各層から埴輪片等が出土したので、後世の盛土と考えられる。
- 6 掘削箇所は、周囲の地盤から約45cm高い所にあり、白砂の下に厚さ約10cmの黒色粘質土、多量の小円礫を含む同40cmの茶褐色土の2層が順に認められ、ともに盛土と考えられる。
- 7 掘削箇所は、陵の東北方、市道に面した外堤上で、かつて周囲の田地よりかなり高く築立てられた場所である。表土の下には粘土ブロックが混じった黄褐色の粘質又は砂質の土で、盛土と推された。
- 8 樋口部分は、表土下20cmが近年のゴミなどを含む新しい濠内堆積土、その下は黄褐色から灰褐色を呈する堅く締まった微砂の大阪層群であった。樋管は、この大阪層群中を貫通させた。
- 9 表土下約0.3～0.5mは坪所造当時の盛土で、その下は黒色の旧表土と地山であった。
- 10 大部分は以前の工事による攪乱であったが、表土下に、礫や粘土ブロックを含む軟らかい黄褐色粘質土の盛土、均質で堅く締まった赤茶色粘質土の地山が認められた。
- 11 大部分は以前の工事による攪乱層と埋戻土であったが、床面近くで一部に大小の礫の集積層が認められた。
- 12 当地西面の石垣上中央に配置された唐門左右に建てられた透塀・築地塀・を改築するため、
- 13 火葬墓が見られなかった以外、2と同様であった。
- 14 見張所基礎部分は、表土下に煉瓦やモルタルを含む盛土。東端付近では、その下に堅緻な黄褐色土が認められ、西側に緩やかに下降していた。地山かと思われる。

参道の給排水管埋設箇所は、表土下は盛土。一部では池沼を埋めた痕跡が認められた。

- 15 水道管埋設箇所では黄褐色の地山が認められたが、その他の掘削箇所は、周辺の水田を埋め立てて形成された坪所や参道の盛土であった。
- 17 一部に地山が検出されたが、大部分は以前の工事による攪乱土・埋戻土であった。
- 18 以前の工事による埋戻土の上を整地盛土したことが確認された。
- 20 橋台の天端に合わせて、その両側の表土を削平した。
- 21 工事は、部事務所北側中堤内法裾長さ20mの地山と思われる場所に丸太杭12本を打ち込んだもので、掘削を伴わなかった。
- 22 表土下に堅く締まった赤い砂質土層があって、墳丘盛土か、地山と考えられる。